

自然ふれあい通信

ショウジョウトンボ



全身真っ赤で俊敏な動きをする。狸々(ショウジョウ)とは飲んだくれていつも顔が赤い酒飲みの妖怪のこと。

春日部の空を元気に飛びまわります。自然の風景に似合います。観察して環境に思いを馳せるのも良いですね。成虫期は林藪々々、草地や林で暮らすものもいます。

アキアカネ



羽化後、秋まで山地に移動。稲刈りが終わったころ里地に集団で戻り水田などに打水産卵。

ナツアカネ



羽化後、雑木林で夏を過ごす。秋に水辺に移動し、雌雄が連結して空中で産卵する。

コシアクトンボ



腹の付け根が抜けたように白いのが雄。雌は黄色く抜けている。

不完全変態 トンボは卵から幼虫、そして成虫へと変態する。蛹(さなぎ)の時期がない。

トンボ

チョウトンボ



チョウのようにひらひら飛ぶ。青紫色の美しい金属光沢の翅(はね)を持つ。

ハグロトンボ



幼虫は草の茂みの中で植物にしがみついて生活する。薄暗い環境を好む。6月下旬に出現。

シオカラトンボ♂



飛び方 前後の翅(はね)をバラバラに動かせるので素早い方向転換や、空中停止ができる。

トンボの産卵

トンボはメス一頭一生で 3000~5000 の卵を産む。孵化数パーセント、羽化数パーセント。成熟して産卵数パーセント。生き残るのは数千分の一の割合。

トンボの種類

国内 200 種以上
世界 6000 種以上

ギンヤンマ



ハグロトンボと同じで針のような産卵管を植物の組織内に刺して産卵する。雄の腹部は美しい青。

餌 ヤゴは生きた小動物のイトミミズ、ミジンコ、オタマジャクシ、小魚、共食いもする。カエル、魚、ザリガニなどに捕食される。成虫は飛びながら小さい虫を捕まえる。

シオカラトンボ♀



成熟した雄の胸腹部が灰白色になり塩をふいた様に見える。4月中旬~11月まで見られる。

メスはムギワラトンボと呼ばれる。草や地面で交尾し、相手の雄の警備下で水面に産卵。

自然観察のすすめ

自然観察の頂点

竹内 潔

私の自然観察の原点は小学生の夏休みによく遊びに行った母の実家(長野県小県郡)での体験です。実家の前は小さな小川が流れており、従兄弟達に教わりながら沢蟹を岩の間から見つけたり、近くの鎮守の床下で蟻地獄を見つけ、残酷にも蟻を蟻地獄へ落として観察していました。

母の実家では養蚕をしており、朝、叔母が桑の葉を与えると大きくなった蚕が桑を食べる音が大きいことに驚きました。成長して蚕の身体がやや透明になり、桑を食べなくなるので糞まぶしに移すと、糸を吐出し繭になります。

また蝉の観察で夕方近くの神社に行き、木の周りの地面をよく観察し、今日羽化する蝉の小さな穴を見つけ、蝉の幼虫を確保して家に帰り、部屋に吊った蚊帳に留まらせて羽化の様子を観察しました。

当時は図書館等ありませんでしたが、従兄弟達と自然の中で楽しい時間を過ごしました。

